

---

# デュアル・ユグドラシル

久遠 夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

デュアル・ユグドラシル

### 【Nコード】

N1182U

### 【作者名】

久遠 夜

### 【あらすじ】

全ての始まりは、あの忌まわしい事件だったのだろう。

それによって増大し、生まれた感情の飽和。

嘆きも、憎しみも、愛情も、1つの形を基とする。

バーチャル・リアリティゲーム『世界樹―ユグドラシル―』が誕生の産声をあげる。

その終焉と開花の物語。

## ヘルダンディーの偽り（前書き）

愛憎の物語になります。

後、私にゲームの知識等が欠如してしているので可笑しなところが  
多々あるかもしれません。

## ヘルダンディーの偽り

西暦2152年、そのオンラインゲームは爆発的な人気で世界に広まった。

『世界樹―ユグドラシル―』という名の、バーチャル・リアリティゲーム。

何万通りというアバターに自身の精神が繋がる、世界初のゲームの誕生である。

それが贖罪と後悔、そして行き過ぎた執着心によってなし得た大業であると理解していたのは、世界でたった一人だけだった。

室内に覚醒を告げる電子音が響く。

また今日という日の始まりを告げるのだ。

日の光がカーテンの隙間から射し込み、長い睫毛が白磁のような肌に影を落とす。それが、ベッドで眠る一成の神秘的な造作の美しさを引き立てていた。

電子音に反応し、煌めく漆黒の瞳が開く。

覚醒してすぐに、今日のスケジュールが脳内でシュミレートされた。一番効率的なプランが取捨選択される。

「社長、お目覚めですか？」

扉を規則的にノックする音の次に、硬質な男の声が聞こえてくる。

一成の第一秘書であり、幼なじみでもある草薙律くさなぎりつである。

「起きてる」

本来、秘書の仕事に社長のプライベートまでサポートするなどという業務は存在しない。

だが、この男は幼なじみ故か、それとも世話焼きな生来の性格故か

あまのかずなり

天野一成の身の回りの全てを担っていた。

一度、必要ないと言ったら、

「貴方、仕事以外は不器用の塊じゃないですか。

家事なんてろくに出来なくて、体調をすぐ壊すに決まっています」

と返され、反論出来なかった。

毎日、毎日前日の仕事が遅くなっても合鍵を使って料理や洗濯、掃除をしにくるためこちらが根負けしてしまい、最初近くのマンションに暮らしていた草薙とそれならいっそのこと一緒に暮らすことにした。

いくらなんでも、通い続ければ身体を壊すと危惧したからだ。

寝覚めも悪ければ、有能な秘書が欠ければ業務も滞ると想像が容易くつく。

「失礼します」

一言断りを入れて、草薙は寝室に入ってくる。

「本日は神林様との会食がありますので、少し明るめのスーツに致しましょう。あの方は、地味な装いを好まれませんから」

そう言いながら、草薙はクローゼットの中からストライプ柄の明るいグレイのスーツとピンクのシャツに深紅のネクタイを選んだ。

こいつの選んだ服で失敗した試しがないのが悔しいところだ。

「シャワーの準備は整えております。その後、お手伝いさせて頂きます。貴方はネクタイも満足に絞められないのですから」

「…分かった」

「それと、バスローブを用意しているので今日こそちゃんと使ってくださいね」

くどくどと言われ、少し腹が立ったが我慢した。

「お前は僕の母親か。口煩くて仕方ない」

「申し訳ありません」

思ってもいないことを口にする草薙に苛立ちがつのる。

目線だけを返し、バスルームに向かった。

バスルームから出てくると、芳ばしいトーストの焼ける匂いと芳醇なコーヒーの香りが鼻腔を撥る。

「また貴方という人は…。ちゃんとバスローブを着て下さいとお願い申し上げたはずでしょう？ 髪も雫が滴ってますよ」

心底呆れた声で注意を受ける。そう言いながら、バスルームからバスローブを取ってきて着せてくる。

「ちゃんとタオルは巻いてるだろ。男同士で何で気遣わないといけないんだ。面倒臭い。」

「そういう問題ではありません。最低限のマナーです」

こいつに素肌を晒すのも、かすずかれるのも今に始まったことでもない。これ以上、小言を聞いていたくなくてテレビをつける。

『魔法と剣が交錯する世界エリクション。そこに足を踏み入れたとき世界は変革を余儀なくされる。オンラインゲームユグドラシル。今、貴方も伝説になる』

丁度、自社のコマーシャルが幻想的な映像と音楽で流れていた。

コマーシャルをきっかけに、過ぎ去ってしまった過去を振り替える。昔は、こんな関係じゃなかった。

幼い頃、3人で一緒に遊んでいた頃は。

全ての事象に変化をもたらしたのは、あの忌まわしい血の匂いを纏った事件だったのだ。

## ヘルマン・ドイヤーの偽り（後書き）

感想頂けると嬉しいです。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1182u/>

---

デュアル・ユグドラシル

2011年11月14日11時58分発行